

第 27 号

編集・発行

信州大学附属図書館

繊維学部分館

平成 10 年 4 月 7 日

---

CONTENTS

---

私の読書遍歴(2)	機能高分子学科 近藤 慶之 (1)
「上田周辺観光ガイド」③	精密素材工学科 村上 泰 (8)
分館通信 平成9年度 利用統計 告知板 編集後記	(10)
平成9年度受入備品図書目録(1~3月)	(L1)

---

Library(電子版)はインターネットでも提供しています。  
URLは <http://shinlif1.shinshu-u.ac.jp/online.html> です。

## 私の読書遍歴

### (2)最近、感銘をうけた本ア・ラ・カルト(à la carte)その1

機能高分子学科 近藤 慶之

読書には、味わいながら読む「味読」と手あたり次第に読む「乱読」とがある。読者の心に残る印象深い読後感には、感銘をうけた本、人生のためになる教訓の本、面白い滑けいな本に分けられます。

今回は、このような広い意味で最近、興味をいただいた何冊かの本の感想文として認めてみました。

まず、読んでいて笑いたくなるような面白い本から入りましょう。ゆかいな本に接すればストレス解消にもってこいです。私がお目にかかった取って置きの本があります。

『快食 快眠 快便』(文芸春秋編、豊田健次発行、文春文庫)は1990年12月発行で、「オール讀物」連載の人気コラム20年分から厳選した76人の「抱腹絶倒」の体験談をまとめたものである。昔から、「食う、寝る、出す」は人生の三大要素で“ゆりかごから墓場まで”お付き合いする長い友達のようなものです。演芸評論家の吉川潮さんの“七色仮便”という記述がある。ミカン、オレンジを食べ過ぎると黄色の便が出る。サクロンを飲むと緑色に、十二指腸潰瘍を患った時に黒色の、バリウムを飲んで白色に、切れ痔の時は赤色に、健康な時の茶色とブルーレットおくだけの清浄剤の水洗トイレを無理やり入れて青色に、語路よくすれば正に七色仮便の意味がおわかりでしょう。作家で「楽園」の著者渡辺淳一さんの“手術中に居眠り!”という「快眠」の滑けいな文がのっている。若い頃のお話で、外科医だった頃、開腹手術で先輩の助手をしながら居眠りし、創口を開いた筋鉤を外せというのに外さず、メスの裏で手の甲叩かれて、ようやく目覚めたという経験を語っている。何しろ、列車、車、飛行機、何でもござれでよく眠れるらしく、睡眠薬から嫌われているようである。とにかく、色々と面白いお話が多くて一暗で読んでしまいました。

面白くてためになる本を1冊。

『笑いは人間をひと回り大きくする』(藤井康男著、大和出版)は1992年11月に初版発行されました。人生にゆとりをもたらすユーモア社交術として書かれたものです。著者は龍角散会長で講演などでも聴衆を引きつけるのが上手で何年か前にお話を聞いたことがありましたが、1 昨年に他界され、まことに残念でなりません。人生の社交術に詳しく、「女にモテない人間に仕事ができるか」などの面白い著書が多数残されております。笑いは人間の特権であり、人間関係をスムーズにさせると説く笑いの効用を満載した、面白くてためになるユーモア人生の勧めを力説しています。“可愛げのある人は出世する”では本多宗一郎(本田技研の創始者)、吉田茂元首相をあげ、さらには筆者が大阪大学の大学院で恩師であった赤堀四郎先生を学究一筋の学者馬鹿とっている。理博で「生物化学」が専門の著者は、怒るとアドレナリンが分泌して体に悪く、笑うと幸福感をもたらすエンドルフィンが分泌して体に良いことなど、体内の生理作用のメカニズムについても触れているので納得のいく説明で素晴らしい。

『大往生』(永六輔著、岩波新書)は1994年3月に発刊され、3年で<sup>たちまち</sup> 忽ちミリオンセラーになった本であります。著者は現在も、語り手、司会者、作詞家など多種多彩に活躍され、全国津々浦々を旅されて、色々な人々と接し、心にしみいる庶民のホンネや寸言などをちりばめつつ、自由自在に書き綴られた人生の知恵とでもいうべき書である。出だしが川柳から入るのも乙でユーモアに富んでいる。「百薬を飲み過ぎ万病で入院中」、「経営の名医が欲しい大病院」、「人生は紙おむつから紙おむつ」などなど。私たちは自分の死の前に多くの家族、友人の死に立ち会う。「死者

老いず生者老いゆく恨みかな」(菊池寛)が記述されています。この本の姿勢は説教や理屈でなく、病院を舞台にして笑いながら諷刺めいた本質をついている点が特徴であります。

「子供叱るな／来た道だもの／年寄り笑うな／行く道だもの。

来た道／行く道／二人旅／これから通る今日の道／通り直しのできぬ道。」

これは素敵な言葉です。私達は、自分より早く生まれた人を追い越すことは出来ません。追い越し不可です。著者は作曲家故中村八大とのコンビで大ヒットさせた誰もが口ずさむ歌が沢山あります。その中でも「大往生」にぴったしの歌詞はこれです。

あなたがこの世に生まれ

あなたがこの世を去る

私がこの世に生まれ

私がこの世を去る

その時涙があるか

その時愛があるか

そこに幸せな別れが

あるだろうか

<セリフ>

「世の中が平和でも、戦争がなくても

人は死にます

必ず死にます

その時に生まれてきてよかった

生きてきてよかったと思いつつながら

死ぬことができるでしょうか

そう思って死ぬことを

大往生といいます」

私がこの世に生まれ

私がこの世を去る

あなたがこの世に生まれ

あなたがこの世を去る

その時 明日がある  
その時 未来がある  
そこに生きるものの歌がある

著者の父、永忠順さんは浄土真宗の寺の住職で、本人は「坊主になりそこなった私は、それなりに“死”を身近に考えてきた」と、まえがきに記しています。

お父さんの言葉も胸をうつ感動的なものです。

「生きているということは  
誰かに借りをつくること  
生きていくということは  
その借りを返していくこと  
誰かに借りたら誰かに返そう  
誰かにそうして貰ったように  
誰かにそうしてあげよう」

感動(深く感じ入ること)と感銘(深く感じて忘れないこと)は、その人の感性によって微妙な趣きの相違があります。感動した本について記します。

『日本一心のこもった恋文』(秋田県二ツ井町編、日本放送出版協会)は1995年2月に初版発行され、1ヶ月で第13刷までいった本で現在〇〇刷になったかわからない程、正に感動的な反響を呼びました。秋田県二ツ井町主催の第1回「きみまち恋文全国コンテスト」の応募作品、全国7035通の中から選ばれた101通の受賞作品を1冊にまとめた本です。大賞に選ばれた柳原タケさん(当時80才)の「天国のあなたへ」という作品は500字程度の恋文ですが、実に素直な心境の描写で読む人の心をとらえ、おそらく読者の多くの人々が目頭をあつくしたものと思います。長野オリンピックの金メダリストの原田選手や清水選手の涙に勝るとも劣らず。

そのまま引用します。

娘を背に日の丸の小旗をふって、あなたを見送ってから、もう半世紀が過ぎてしまいました。たくましいあなたの腕に抱かれたのは、ほんのつかの間でした。

32才で英霊となって天国へ行ってしまったあなたは、今どうしていますか。  
私も宇宙船に乗ってあなたのおそばに行きたい。あなたは32歳の青年、私は傘寿を迎える年です。おそばに行った時、おまえはどこの人だなんて言わないでね。よく来たと言って、

あの頃のように寄り添って座らせてくださいね。お逢いしたら娘夫婦のこと、孫のこと、また、すぎし日のあれこれを話し、思いっきり、甘えてみたい。あなたは優しく、そうかそうかとうなづきながら、慰め、よくがんばったねと、ほめて下さいね。

そして、そちらの「きみまち坂」につれて行ってもらいたい。春のあでやかな桜花、夏、なまめかしい新緑、秋、ようえんなもみじ、冬、清らかな雪模様など、四季のうつろいの中を二人手をつないで歩いてみたい。

私はお別れしてからずっと、あなたを思いつづけ、愛情を支えにして生きて参りました。もう一度あなたの腕に抱かれ、ねむりたいものです。力いっぱい抱きしめて絶対はなさないでくださいね。

このような素敵な“恋文”が、子供から大学生、主婦、ご年配の人達までのっていて、どの文章も、それぞれに感動してしまい、人生の凝縮を感じました。必読の書、受合いです。この手紙に出てくる「きみまち坂」は私は、まだ行ったことがありません。秋田県の北部にある山本郡二ツ井町は南北に細長い町で、人口はおよそ 13,000 人程、良質米の“あきたこまち”と“秋田杉の里”として全国に知られ、山紫水明の地だそうです。県立自然公園「きみまち坂」から眼下に米代川を見下ろす眺望は、四季を通じて素晴らしく「天下の大観、みなここに鐘かねまる」といわれているようで、私もいつの日か、そこを旅したいものと思っております。

感動の次は感銘ですが、今回、一番に推薦したい本があります。

『愛、深き淵ふちより。』(星野富弘著、立風書房)は、1981年1月に初版で1990年6月には90刷まで達した本です。私は書店で入手したのは90刷の本ですが、かなり以前より作者の名前は知っていました。事故で四肢が麻痺まひした青年が口で絵や詩を書くようになるまでの生命の軌跡であり、筆をくわえて綴った生命の記録です。作家の水上勉さんの書かれた雑誌「いつかどこかで」より抜粋の「花の詩人に寄せる」の文章がとても印象的ですので引用します。

本書は、重度障害のなかでも、おそらく仲間のいない、きわめて不自由な全身機能の麻痺といってもよい星野さんの、障害との戦いと、詩画に楽しみを見出して、筆を口にくわえてそれを書き描くようになるまでの、精神史といってもよいだろう。ふつうの闘病記録でないのである。残っているわずかな機能から自己回生かいせいの道を見出し、詩と絵が対岸にあって、みちびかれてゆく心のけしきに、私は涙をおぼえた。(略)誰かそばに人がいなければごはんもたべられぬ寝たきりの床から這はいあがってゆかれるつよさにも感動したが、詩と絵が、嘗かつてこれほど人間のいのちの尊厳そんげんとむすびついたことがあったか、と問いなおし、その真象しんしょう

を生きてきた人の記録と考えた時に、本がにわか<sup>も</sup>に持ち<sup>おも</sup>重りがしてきて、手がふるえた。  
(中略)

作品の二・三が写真頁になっているのを拜見し、ここまで<sup>たど</sup>辿りつかれるまでの、ながい歲月をも思った。それと、この詩人が花に寄せる心のかげについて深く吸いつけられ、ゆりうごかされた。(中略)

回生不能とさえいわれた不幸な障害をひきずり、この詩人がうたいあげる花の詩が、どこまで<sup>ほ</sup>彫りこまれてゆくか、文学史にのこる<sup>えい</sup>營為だと思う。(水上 勉)

5～6年前に読み切った本ですが、今回、さらに「味読」をすべきものと考えました。

最後に、教訓になる本を二つ紹介したい。その一つは、『いい生き方、いい文章』(高橋玄洋著、同文書院)で1993年12月に発行され、長野の平安堂書店で立ち読みして、さっと買ってしまって、しばらくそのままになっており、ある時、書齋からひょっこり出てきたので、2年程前に読みました。著者は「野々村病院物語」、「繭子ひとり」などテレビドラマの多くを脚本されており、私の好きな作家の一人でもあります。最近の学生、いや我々も含めて多くの人が“お喋りは上手だが字を書くのは苦手”、だから“電話は掛け易いが手紙を書くのはおっくう”という傾向にあるようです。実は、コンピューターより手で文章や絵をかく方が右脳を活性化させ、心をリフレッシュさせるので、とても重要であるとは、多くの“脳”に関する本でお目にかかっています。“美しい文章を書くコツ、文章観を変えましょう”そして、“いい生き方がいい文章を生む”と著者は述べておられます。“言葉の魔力”について触れ、昔は作文のことを綴り方と言いました。文章は言葉で綴ります。阿久悠さん作詞の「津軽海峡冬景色」の冒頭の部分、

上野発の夜行列車 おりた時から  
青森駅は雪の中 ……………  
……………

何でもない文章のようですが、わずか二行の中に、夜行列車の一夜の感慨から、雪の朝の青森駅に降り立つ息の白さまで連想させる筆力が素晴らしい詩で“魔力”というわけです。向田邦子さんの「鮒」という小説の一説、

鮒は、斜めになったまま、もう魚でない、別のものになって、浮いたり沈んだりしている。

死んだ魚の描写ですが、「魚でない、別のものになって」ということで、死んだ鮒の姿をより鮮明にイメージできます。川端康成さんの「雪国」という小説は作者が鋭い感性で捉えた描写の素晴らしさをあげています。

- (1) 夜の底が白くなった。(2)彼には保護色を求める気持ちがあつて…
- (3) 彼はその程度の浅瀬を渡っていたのだった。

本来、違う世界で、違う意味に使う言葉を、本来の意味以外の使い方をしているところが、さすがノーベル賞作家の優れたところで、著者は、このような表現を「ライフル射撃」と呼び、一発の弾(言葉)で、その急所を射止めているからとっています。

最後に、お薦めの教訓の本にいきます。

『生きるヒント』(五木寛之著、講談社)1巻～5巻です。著者は1970年に出版された「青春の門」の大ヒットで映像化もされているので、ご存知の人も多いかと思われます。私も発売から6年後に墮落篇(上)までの7冊を一度に購入し読み通しました。その時までは作家の書物に接することがなかったのですが、それ以来、歌手の五木ひろしと同じ位興味を示すようになりました。著者のごく自然体の易しい表現で、読者を引き付けるところが私はとても気に入っています。著者いわく「この本は人生論ではない。生きる“思想”という大げさなものでもない。生活していく上でのちよつとした“ヒント”です。」と。初版は雑誌「ミセス」に1992年1月～12月号に掲載された「自分の人生を愛するための12章」を改題されたものです。1～4巻まで、5年前より毎年1冊ずつ出版され、5巻は昨年の11月に発売され、今、好評のようです。文章中に、具体的で誰でも知っているような四字熟語の例を上げたり、表現も格式ばらずに理解し易く“うむ、なるほど”と思わず口遊くちずまみたくなる場面があります。将棋の羽生名人が女性と会話するCMで“やっててよかった「公文式」”に背そむかって、“読んでてよかった「生きるヒント」”となること間違い無しです。

今回(2)も、とりとめのない書評になってしまいましたことを反省しています。次回(3)のテーマは「最近、感銘をうけた本ア・ラ・カルト(à la carte)」その2の予定です。

## ◎ 信州の鎌倉・塩田早とその周辺(後編)

## ⑨ 前山寺三重塔

塩田城跡をはさんで中禅寺の逆側に前山寺があります。「未完の塔」として親しまれている三重塔があります。窓も廊下もないことから未完成とされています。この塔は国宝の二つの塔と並んで美しい塔で是非ご覧いただきたいと思います。予約をすれば寺で「くるみおはぎ」を食べられます。

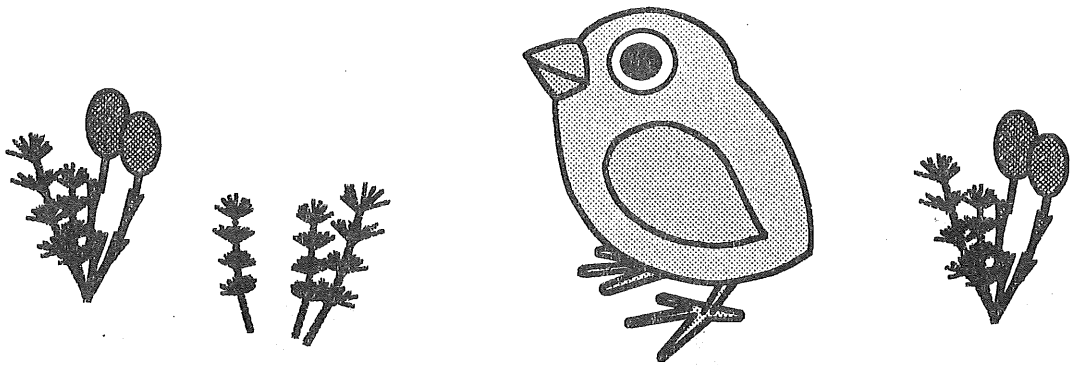
## ⑩ 信濃デッサン館

前山寺の参道脇に、作家水上勉氏の子息窪島誠一郎氏によって昭和 54 年に開かれました。村山槐多をはじめ、才能がありながらも若いうちに亡くなった画家のデッサンを中心に展示してあります。

## ⑪ 無言館

信濃デッサン館の分館として、本館東隣りにある丘陵地の頂に開館した慰霊美術館です。太平洋戦争で志なかばで戦死した画学生 30 余名、300 余点の遺作、遺品を展示し、館主窪島誠一郎氏自身の設計による建物は十字架形をしたヨーロッパの僧院を思わせます。ニュースステーション等でもとりあげられたように、野見山先生の亡き画友への鎮魂録「祈りの画集」にうたれて、「無言館」建設を決意した窪島氏が2年間全国の戦没画学生の遺族をたずねてまわられ、作品を集められました。「無言館」は多くの人の協力によって建設され、入館料も随意制(200~500 円)となっています。





## ⑫ 生島足島神社

前山寺と上田駅の間くらいにあるのが生島足島神社です。日本のほぼ中央に位置するといわれています。本殿には床板がなく、玉砂利が敷き詰められた一坪の土間がご神体という珍しい神社です。ここには、万物を生み育てる神「生島大神」と、国中を満ち足らしめ給う神「足島大神」が日本国土の守護神として鎮座しています。社殿の周りには池がめぐらされ、朱塗りの神橋がかかった、その美しさには定評があります。

## ⑬ 大法寺三重塔(国宝)

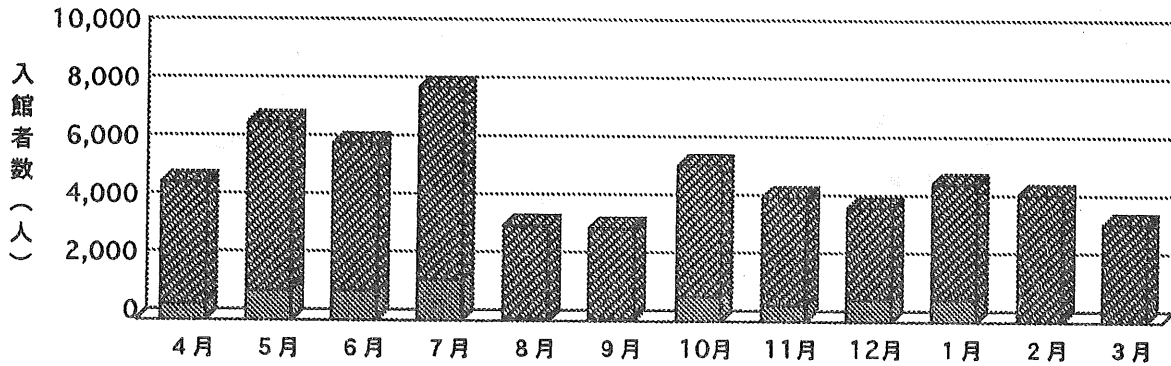
上田市から青木村へ入ったところに大法寺があります。ここには国宝に指定されている三重塔があります。高さ 18.56 メートルの壮大な鎌倉時代の建築物で、東山道を旅する人々が塔の美しさに振り返りながら過ぎていったことから「見返りの塔」と呼ばれています。

## 平成9年度 利用統計

昨年度の利用状況をご報告します。

### ◆開館日数・入館者数

■ 入館者数    ■ 夜間入館者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	4,205	5,776	5,054	6,631	3,251	3,124	4,617	3,770	3,200	3,978	4,408	3,377	51,091
夜間入館者数	547	1,043	1,038	1,332	51	90	777	516	682	761	0	0	6,837
開館日数	21	21	21	22	21	20	22	18	19	19	19	22	245
夜間開館日	15	21	21	22	2	4	22	18	19	18	0	0	162

### ◆貸出・返却統計

	貸 出		返 却	
	冊	人	冊	人
4月	283	123	260	131
5月	572	221	636	248
6月	568	216	504	204
7月	607	218	649	235
8月	522	153	257	96
9月	260	95	392	142
10月	505	191	359	153
11月	430	177	385	162
12月	794	241	719	232
1月	550	195	478	179
2月	282	109	259	101
3月	251	67	317	99
合 計	5,624	2,006	5,215	1,982

ここでは図書館からの最新の情報をお知らせしています。  
 次号 Library 発行までのお知らせは、Library 号外として構内の掲示板や  
 繊維学部分館ホームページ (<http://shinlif1.shinshu-u.ac.jp>) でご案内  
 していますので、そちらをご覧ください。

⇒ **図書館オリエンテーションを行いません！**

- ○ について書いた本を探しているのだけど図書館のどこにあるの？
- × × について調べたいのだけど何で調べたらいい？
- 図書館にある端末やカードは何をするためのもの？

図書館を利用する際、図書館の利用方法や図書(文献)の探し方について疑問に思ったことは  
 ありませんか？目的の本が見つけれない、図書館にある設備の利用方法がわからず使えな  
 かった、といった経験は誰にでもあるのではないのでしょうか。

**図書館の有効な使い方を知ることは、学習・研究に多いに役立ちます！**

そこで、図書館では特に新2年生の方を対象に、主に図書館内の設備の案内・図書館で行な  
 っているサービスの説明会を行いません。4月から開始の新サービスや松本の中央図書館とは  
 多少異なる点もありますので、是非、参加してください。実施時間は以下の通りです。

\*\*\* 参加される方は、開始時刻までに **図書館2F会議室** にお集まり下さい \*\*\*

4/13 (月)	4/14 (火)	4/15 (水)	4/16 (木)	4/17 (金)
9:30~				9:30~
13:30~		13:30~	13:30~	
	15:00~		15:00~	15:00~

\* 所要時間は 30~40 分ほどです。

もちろん、2年生以外の方の参加も O. K. です。

また、希望者(グループ)・講座を対象に、希望に沿った内容のオリエンテーションも行ないま  
 すので、繊維学情報係(内線・5015、担当:武田)までお問い合わせ下さい。

⇒ 4月から新サービスを開始します！（予告）

信州大学附属図書館では、4月から2つの新しいサービスを開始します。

◎ TV電話を利用した遠隔レファレンス・サービス

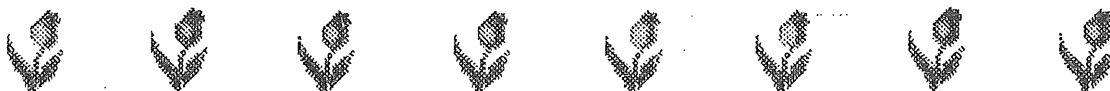
今まで以上に利用者の皆さんからの質問にお応えできるよう、テレビ電話を利用したサービスを開始します。信州大学の6つの附属図書館・分館にテレビ電話を設置し、当該館だけでは解決できない質問により専門的な資料・技術を持つ館が対応します。

詳しい内容については、Library号外などでお知らせします。カウンター脇に設置する予定ですので、気軽にご利用ください。

◎ 電子メールを使った各種申込みシステム稼働！（教官のみ）

準備を進めてきましたWWWと電子メールを組み合わせた図書購入・文献複写・現物貸借の申込システムが4月より稼働します。これにより、かねてより要望の高かった研究室からの各種申込みが可能になります。現在、繊維学部では電子メールによる文献複写の申込みを受付けておりますが、更に簡易にご利用いただけ、また、各申込みの処理状態が随時参照できるようになります。

サービス開始時期が決まり次第、別途ご連絡いたしますので、どうぞご活用下さい。



⇒ 図書委員会(H10.4.1-H12.3.31)および平成10年度係員の職務分担

分館長 中沢 賢(機能機械学科)  
 運営委員 小西 哉(機能機械学科)

応用生物科学科 保地 眞一  
 繊維システム工学科 西松 豊典  
 素材開発化学科 川崎 晋司  
 機能機械学科 小西 哉  
 精密素材工学科 新井 親夫  
 機能高分子学科 英 謙二  
 感性工学科 湯田 彰夫

以上の先生方で構成されます。

担当者	内線	e-mailアドレス	職務分担
峯村係長	5313	tminemu@gipwc.shinshu-u.ac.jp	分館事務総括
大槻修子	5016	sotsuki@giptc.shinshu-u.ac.jp	雑誌/図書の購入、紀要 別刷/論文掲載料
武田佳代	5015	jfc5101@giptc.shinshu-u.ac.jp	文献複写(依頼)/現物貸借(依頼) 目録、雑誌の製本、情報システム管理
中村重子	5017	jfc5102@giptc.shinshu-u.ac.jp	文献複写(受付)/現物貸借(受付) カウンターでの窓口業務
斎藤 晶	5015	jfc6100@giptc.shinshu-u.ac.jp	資料の配架/貸出/返却 カウンターでの窓口業務

\* 図書館の利用案内、各種端末の操作方法、資料の所蔵の確認などは、係員全員が  
 担当しますので、お気軽にお尋ね下さい。

4月の人事異動により、繊維学部分館のために尽力してこられました北澤係長、濱事務官  
 が転任いたしました。新たに3名のスタッフを迎え、新メンバーでこれまで以上に一所懸命努  
 めてまいりますので、よろしくお願いたします。

## 分館通信 (1月～3月)

- \* 1/27 第5回目録担当実務者研修会(松本) 出席者－武田
- \* 2/23 全学図書関係係長会議(松本) 出席者－北澤
- \* 2/23 信州大学図書館講演会(旭会館大会議室) 出席者－学内教職員  
『大学における情報化の現状と将来』  
講師 郷端 清人氏(立命館大学総合情報センター次長)
- \* 3/9 信州大学図書館講演会(SUNS) 出席者－学内教職員  
『電子化時代の図書館サービス－現状と将来』  
講師 石井 啓豊氏(図書館情報大学教授)
- \* 3/9 第10回図書委員会(紙上協議)
- \* 3/10 全学図書関係係長会議(SUNS) 出席者－北澤
- \* 3/25 全学図書関係係長会議(松本) 出席者－北澤

## 編集後記

ここ数日の暖かさに誘われて、花々がいっせいに咲き始めました。オリンピックで盛り上がった冬も終わり、また、新しい季節の到来です。

今号は近藤先生から寄稿いただきました。前回の「私の読書遍歴(1)」から1年、待望の続編です。楽しみに待っておられた方も多いのではないのでしょうか。先生の楽しい紹介につられ、原稿をいただいた翌日に書店へ行ってきました。残念ながら目当ての本は見つかりませんが、また、書店へ行く楽しみができました。年度末のお忙しい中、原稿をお寄せくださいました先生にこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。次回も楽しみにしております。

次号は7月の発行を予定しています。利用者の皆さんの声もLibraryに掲載したいと思しますので、ご意見・書評など何でもお寄せ下さい。係員に直接、またはE-mailでの寄稿もお待ちしています。

E-mailアドレスは [jfg0100@giptc.shinshu-u.ac.jp](mailto:jfg0100@giptc.shinshu-u.ac.jp) です。

# 平成9年度 受入図書目録

1月～3月

これまで、Libraryで新規受入図書のご案内をしてまいりましたが、4月より図書館入口の掲示板にてご紹介します。受入の翌月に掲示しますので、どうぞご覧ください。

## ◆ 教官用(研究室にあるもの)

配架場所の敬称略/受入日順

書名	編著者	出版社	出版年	配架場所
新医療機器事典	新医療機器事典編集委員会編	産業調査会事典出版センター	1997	山浦逸
衣服解剖学	中沢愈	文化出版局	1996	鮑
科学計測のための画像データ処理	河田、南編著	CQ出版社	1994	松瀬
計測の科学と工学	苅屋、前田	産業図書	1993	鳥羽
絵でわかる電磁気学	橋本正弘	オーム社	1993	鳥羽
図でわかる電磁気学	伊藤彰義	講談社	1996	鳥羽
順・逆解析入門	村瀬、小山、石田	森北出版	1990	鮑
有限要素法ハンドブック II	鷲津ほか編	培風館	1983	鮑
機械設計における有限要素法の活用	チャールズ・E ナイト原著	森北出版	1997	鮑
FEMプログラム選集 1	加川編	森北出版	1994	鮑
FEMプログラム選集 2	加川編	森北出版	1994	鮑
Mathematica	ステイブ・ウルフラム著	アジソン・ウエスレイ・パブリッシャーズ・ジャ	1992	山浦逸
複雑系の選択	田中三彦、坪井賢一著	ダイヤモンド社	1997	清水
エージェントアプローチ人工知能	Stuart Russell, peter Norvig著	共立出版	1997	清水
高純度化技術大系 第3巻 高純度物質製造プロセス				新井
生体のゆらぎとリズム	和田孝雄	講談社	1997	森川英
複合材料の事典	宮入ほか編集	朝倉書店	1991	鮑
複合材料ハンドブック	日本複合材料学会編	日刊工業新聞社	1989	鮑
脳の計算理論	川人光男	産業図書	1996	上條
事象関連電位	丹羽、鶴編著	新興医学出版社	1997	上條
生化学演習	柳田充弘, 猪飼篤, 桂勲共著	東京化学同人	1979	林田
生化学・分子生物学演習	猪飼篤, 野島博著	東京化学同人	1995	林田
How many people can the earth support?	J.E.Cohen	Norton	1995	鈴木
Annual review of genetics. V.31		Annual Reviews	1997	武井
Electrochemical methods	A.J.Bard, L.R.Faulkner	John Wiley	1980	東原
Ergonomics	k.H.E.Kroemer	Prentice-Hall	1994	西松

書名	編著者	出版社	出版年	配架場所
Hydrodynamics stability	P.G.Drazin & W.H.Reid	Cambridge Uni. Press	1981	松瀬
プロコル分析入門	海保、原田編	新曜社	1993	西岡
ソフトウェア工学入門	河村一樹	近代科学社	1995	西岡
システム工学入門	寺野寿郎	共立出版	1985	西岡
クォークとジャガー	マレイ・ゲルマン	草思社	1997	鈴木
プラスチック光ファイバー	川久保宏之	冬樹社	1989	鳥羽
英米文学にみる家族像	久守和子, 高田賢一, 中村邦生編著	ミネルヴァ書房	1997	多田
幽霊にさわられて	三浦清宏	南雲堂	1997	多田
女性学ブックガイド	ランカスター大学女性学研 究センター編	三修社	1995	多田
女性学ブックガイド II	ランカスター大学女性学研 究センター編	三修社	1997	多田
自然と自我の原風景	野島秀勝著	南雲堂	1997	多田
イギリス・ロマン派の系譜	五島正夫	文化書房博文社	1997	多田
<男らしさ>のゆくえ	伊藤公雄	新曜社	1993	多田
イベンダー・ホリフィールド	イベンダー・ホリフィールド, バーナード・ホリフィールド	ヘースホール・マガジ ン社	1997	多田
昔話と日本人の心	河合隼雄	岩波書店	1982	多田
脱電腦生活	マイケル・シャリス	工作舎	1992	多田
新・死の位相学	吉本隆明	春秋社	1997	多田
英国小説の「語り」の構造	木下善貞	開文社出版	1997	多田
E.M.フォースター	ライオネル・トリリング	みすず書房	1997	多田
今日のアメ리카小説	曾根田憲三	開文社出版	1991	多田
哲学とは何か	ジル・ドゥルーズ, フェリクス・ ガタリ	河出書房新社	1997	多田
コーンウォール	井村君江	東京書籍	1997	多田
セレンディピティー	R. M. ロバーツ	化学同人	1993	多田
ソヴェエトの悲劇 下	マーティン・メリア	草思社	1997	多田
孔子神話	浅野裕一	岩波書店	1997	多田
アルトー 思考と身体	宇野邦一	白水社	1997	多田
20世紀特派員 1	産経新聞「20世紀特派 員」取材班	産経新聞ニュース サービス	1997	多田
文明のなかの科学	村上陽一郎	青土社	1994	多田
英国の著名小説家十人	ヴァレリー・G・マイヤー	開文社出版	1996	多田
Centre of the Cyclone	John C. Lilly	Marion Boyars	1990	多田
"Surely You're Joking, Mr. Feynman!"	edited by Edward Hutchings	W.W. Norton	1997	多田
Science and Modern World	Alfred North Whitehead	Free Press	1967	多田
Palace	Colin Wilson	Amphion Press	1992	多田
遺伝アルゴリズムハンドブック	L. デービス編	森北出版	1994	河村



書名	編著者	出版社	出版年	配架場所
工系数学講座 第10巻	河村哲也	共立出版	1998	上 條
奪われし未来	シーア・コルホーン	翔泳社	1997	鳥 羽
総合的害虫管理学	中筋房夫	養賢堂	1997	鳥 羽
新和英大辞典	増田綱編	研究社	1974	林 田
理化学辞典 第5版	長倉三郎 [ほか] 編集	岩波書店	1998	林 田
Journal reproduction & fertility. Suppl. 42		Journal reproduction & fertility	1997	木 村
Genetic algorithms in molecular modeling	J.Devillers	academic Press	1996	渋谷
Fluid mechanics	L.D.Landau & E.M.Lifshitz	Butterworth Heinemann	1987	松 瀬
Bacteria as multicellular organisms	J.A.Shapiro & M.Dworkin	Oxford Uni. Press	1997	関 口
The merck index. 12th ed.		Merck	1996	林 田
Fundamental principles of molecular modeling	W.Gans, et al.	Plenum	1996	渋谷
Numerical recipes in C 日本語版	W.H.Press ほか	技術出版社	1994	西 岡

◆ 学生用 (図書館にあるもの)

\* 学科推薦図書およびシラバス掲載図書は、館内に備付のリストをご覧ください。

書名	編著者	出版社	出版年	配架場所
繊維ハンドブック 1998	日本化学繊維協会	繊維総合研究所	1997	参 考
名前の読み方辞典	東京堂出版編集部編	東京堂出版	1990	参 考
日本農書全集 第59巻		農山漁村文化協会	1997	開 架
日本農業年鑑 1998	日本農業年鑑刊行会編	家の光協会	1997	参 考
光導波路の基礎	岡本勝就	コロナ社	1992	開 架
Comprehensive chemical kinetics. V.35	ed by R.G.Compton, G.Hancock	Elsevier	1997	開 架
生命機械工学	三輪敬之編	裳華房	1992	開 架
ゾルーゲル法の応用	作花濟夫	アグネ承風社	1997	開 架
理化学辞典 第5版	長倉三郎 [ほか] 編集	岩波書店	1998	参 考
日本農書全集 第62巻		農山漁村文化協会	1998	開 架
化学発光イムノアッセイ	辻、菅野編著	ライフ・サイエンス	1992	開 架
最新果汁・果実飲料事典	(社)日本果汁協会監修	朝倉書店	1997	参 考
化合物の辞典	高木進ほか編	朝倉書店	1997	参 考
被服学辞典	阿部幸子ほか編	朝倉書店	1997	参 考
アパレル科学	丹羽雅子編著	朝倉書店	1997	開 架

書名	編著者	出版社	出版年	配架場所
衣生活学	樋口ゆき子編著	朝倉書店	1997	開架
被服構成学	中保淑子ほか	朝倉書店	1995	開架
世界人名辞典	デイヴィット・クリスタル	岩波書店	1997	参考
哲学・思想事典	廣松渉ほか編集	岩波書店	1998	参考
化学の基礎	竹内敬人	岩波書店	1996	開架
物理化学	関一彦	岩波書店	1997	開架
無機化学	斎藤太郎	岩波書店	1997	開架
有機化学	竹内敬人	岩波書店	1998	開架
有機合成化学	鈴木仁美	岩波書店	1997	開架
量子化学	大野公一	岩波書店	1996	開架
生化学	猪飼篤	岩波書店	1996	開架
本と人の歴史事典	高宮、原田	柏書房	1997	参考
無機化合物・錯体辞典	中原勝儼	講談社	1997	参考
ミステリの経済論理学	竹内靖雄	講談社	1997	開架
対訳日本事典	講談社編	講談社	1998	参考
生産システム便覧	(社)精密工学会編	コロナ社	1997	参考
明治ワンダー科学館	横田順彌	ジャストシステム	1997	開架
人物表現辞典	中村明編	筑摩書房	1997	参考
見る脳・描く脳	岩田誠	東京大学出版会	1997	開架
図解スポーツルール大事典	綿井永寿監修	東陽出版	1997	参考
科学の終焉	ジョン・ホーガン	徳間書店	1997	開架
医学大辞典		南山堂	1997	参考
機械用語大辞典	(社)実践教育訓練研究協会編	日刊工業新聞社	1997	参考
科学者人名事典	科学者人名事典編集委員会編	丸善	1997	開架
森林の百科事典	太田ほか監修	丸善	1996	参考
水の百科事典	高橋ほか編	丸善	1997	参考
Essential cell biology	B.Albertsほか	Garland Pub.	1998	開架
化学プロセス	化学工学会編	東京化学同人	1998	開架
はじめて学ぶ大学の有機化学	深沢ほか	化学同人	1997	開架
はじめて学ぶ大学の無機化学	三吉克彦	化学同人	1998	開架
物理化学の基礎づくり	C.ローレンスほか	化学同人	1997	開架
分析化学の基礎	木村、中島	裳華房	1996	開架
奪われし未来	シーア・コルボーン	翔泳社	1997	開架
メス化する自然	デボラ・キャット・ハリー	集英社	1998	開架
わかりやすい基礎科学	神戸ほか	講談社	1998	開架
接着・粘着の化学と応用	中前、水野、浦濱	大日本図書	1998	開架

書名	編著者	出版社	出版年	配架場所
理科系の英文技術	M.Alley	朝倉書店	1998	開架
初めて学ぶ基礎ロボット工学	小川・加藤	東京電機大学出版局	1998	開架
アトキンス物理化学要論 第2版	P.W.Atkins	東京化学同人	1998	開架
物理学 三訂版	小出昭一郎	裳華房	1997	開架
天蚕	赤井・栗林	サイエンスハウス	1990	開架
機能高分子材料の化学	戸嶋、遠藤、山本	朝倉書店	1998	開架
キッテル固体物理学入門 上 第7版	C.Kittel	丸善	1998	開架
キッテル固体物理学入門 下 第7版	C.Kittel	丸善	1998	開架
生体のゆらぎとリズム	和田孝雄	講談社	1997	開架
無機溶液反応の化学	舟橋重信	裳華房	1998	開架
コーワン無機生化学	J.A.Cowan	化学同人	1998	開架